

日付:2016年4月3日／聖書:ヨハネの黙示録1:1～8

説教:「今おられ、かつておられ、やがて来られる方」

当時、ローマ帝国の支配下に置かれていたこの時代は、皇帝ドミティアヌスが支配者として君臨していた。彼は皇帝礼拝を強制し、自分を神として位置づけ、抵抗する者は捕らえられ、殺され、拷問を受けた。キリスト者を迫害した最初の皇帝として有名なのがネロだが、そのネロよりも神であることを強調し、皇帝礼拝を強要したとされる。

その信教の自由が奪われ弾圧された中で、このヨハネの黙示録は書かれたのである。しかし、この書には失望感は見られない。むしろ力強い、励ましの言葉、確信に満ちた言葉で綴られている。何故か？それは、イエス・キリストは、死んでいるのでも、不在なのでもない。また、隠れているのでも、沈黙しているのでもない。キリストは、教会の中に存在し復活のキリストからのメッセージが語られている。今や、パトモス島のヨハネから神の言葉が語られていく。アジア州にある七つの教会へ。ヨハネが捕らえられたと聞いて、教会はどれ程恐ろしく、虚しく、悲しく、失望の中にあっただろうか。アジア州にある七つの教会は、イエス・キリストが死んで存在しないかのように、隠れ、沈黙していたことだろう。しかし、このヨハネからの手紙を受けて励まされていく。教会は、イエス・キリストが存在するからこそ、国家権力の暴力的支配下の中にあっても、今もなお教会は末広がる。当然ながら、今の時代もまた、国家権力の暴力的行為に教会はどう向き合っているかが問われている。

先週の3月29日に安倍内閣は、「集団的自衛権」が行使できる状況を強制的に造り出した。戦争が出来る国へと舵を切ったということ。沖縄においては、辺野古新基地建設に反対する市民を先日不法逮捕した。昨日、幸いにも釈放されたが。国家は暴力的に権力を行使して辺野古ありきで人殺しの軍事基地を造ろうとする。

教会は、イエス・キリストは死んでいるのでも、不在なのでもない。また、隠れているのでも、沈黙しているのでもない。キリストは、教会の中に存在していることを表していく事でのみ、教会としてあり続けるのである。教会は「今おられ、かつておられ、やがて来られる方」を、勇気をもって、誇りをもって、現して行きたい。(神谷)